

## とりなしの祈り

創世記一八章16～33節

# 24

(土)

11

その人たちはそこからソドムの方へ向かつて行つた。しかしアブラハムはなお主の前に立つていて。アブラハムは進み出て言った。「あなたは本当に、……滅ぼされるのですか。」（22、23）

三人の旅人からソドムの町が罪のゆえに滅ぼされることを聞いたアブラハムは、三人と別れた後もその場を去ることができませんでした。滅び行く人々のことを思いながら、彼は主の前に立ち続けたのです。そして、「あなたは本当に、……滅ぼされるのですか」と人々のためにとりなしを始めました。このアブラハムのとりなしの姿は、主イエスの姿を思い起こさせます。主は私たちの救いのために、昼も夜も絶えず神の前にとりなしをおられます。キリストのとりなしのゆえに、私たちには滅びることなく神の前に立ち続けることができるのです。キリストのとりなしによつて救われた私たちは、今度は他者をとりなすために働きます。アブラハムの熱心なとりなしを聞いてくださつた神は、私たちのとりなしにも耳を傾けてくださいます。私たちも友をとりなす務めをさせていただきましょう。